

「命はひとつ ～行動が変わる～」

令和3年度 高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

高知県教育委員会 拠点校 高知県立中村特別支援学校

拠点校の取組

（1）拠点校の目標

<背景・課題>

本校は南海トラフ地震で発生が予想される津波による被害は想定されない高台に位置しているが、土砂災害や通学路の遮断など地震による大きな被害を受けることが想定される。

また、本校の周辺は土砂災害危険地区になっている。在籍する児童生徒には、環境の変化に順応しにくい、聴覚、触覚等の感覚過敏、コミュニケーション力、自力歩行や素早い避難行動の困難さ、得た知識や技術が断片的になりやすく繰り返し学習が必要であるなど障害による防災上の苦手さや困難さがある。

○校舎等について

昨年度、高知大学名誉教授岡村眞氏を招聘して、実際に震度6以上の地震が発生した場合に、建物や校舎内がどのような状況になるのかをご教示いただき、校舎等の被害状況に応じた避難訓練の見直しやマニュアルの改訂に取り組んでいる。また、昨年度から発災時に危険なものはないかを教室安全点検表を使って各クラスにて点検を実施している。

○登下校中に発災した場合の状況や安否の確認

広範囲から通学している。通学の方法もさまざまである。特に単独で通学している児童生徒についての安否確認や障害のある児童生徒の安全確保については課題がある。

○スクールバス

運行経路上の避難場所を決めている。避難訓練も年に1回実施し、バスへの駆け付け方や連絡方法、児童生徒の誘導などについての確認はできているが、実際に発災した場合、教員が駆けつけることができない場合も考えられる。その場合は、乗務員3名で、40名前後の障害のある児童生徒の安全確保をしなければならない。また、状況によっては、児童生徒が長時間バスの中、あるいは、避難場所で乗務員3名のみの支援で待機しなければならないことも想定される。こういった背景がある中で実際的な避難訓練になっていないことが課題である。

○防災学習

昨年度の課題として、パターン化した避難訓練では速やかに避難行動ができているが、突発的な状況下で自分の身を守る行動がとれるかどうかについては十分に想定できていないことがわかった。そこで、学校全体の避難訓練や各学級での防災学習の中で突発的な状況を設定して避難訓練を実施した。児童生徒は、突発的な状況下でも身を守る行動をとることが定着しつつある。しかし、場面や場所が異なる状況下では、課題が残った。また、現在の防災学習においては、小、中、高の学部に渡った系統的な学習が十分ではなく災害から自分の身を守る力を身に付けさせるための系統的な学習計画が必要である。

○保護者

自宅周辺の避難場所については約3割の家庭が決めていない。また、障害のある子どもが安全に避難できるのか、避難所での生活に対応できるのか不安に思っている保護者も多くいるため、学校の防災学習や取組を家庭と共有し、児童生徒の学びが、どのような環境下でも発揮できるよう防災の取組をすすめていきたい。

○教職員

防災に対する意識には差があり、昨年度、意識調査のための教職員を対象とした防災ア

ンケートを年2回実施した。年2回のアンケートを比較、分析すると1年間防災学習に取り組んだことや研修会の実施をしたことにより、教職員の防災に対する意識は向上する結果となった。しかし、現状は、教室や職員室等の整理整頓や靴着用率100%でないことから「意識」から「行動」への変容は不十分であることがうかがえる。

○地域

避難所に関する取組は四万十市や地域と連携して行っている。また、日ごろから必要に応じて児童生徒の支援に関して各関係機関と連携して行っているが、防災について具体的にどのようなことができるのかは今後検討を深めていく必要がある。

これまでの防災に関する取組により、教職員、保護者とも今後30年以内に起こると想定される南海トラフ地震に備えることの大切さは理解できている。児童生徒も火災や地震を想定した突発的な状況下での避難行動はできるようになってきた。しかし、発災時の状態について漠然としたイメージしかもてていないこと、防災に関しての意識はあるが行動に身に付いていないこと、防災学習の内容に偏りがあり、系統的なものになっていないことなど多くの課題がある。

<目標>

「行動が変わる」をテーマに、以下の内容を目標とした。

- 学校全体で防災学習に取り組み、授業改善を図り、系統的な防災学習につなげる。
- 児童生徒・教員・保護者が防災に関する意識をもち、より多くの危険に気付くことで「整える」「備える」「話し合う」等の行動につなげる。
- 地域や家庭に本校の防災学習の取組を発信することにより、防災に関する地域や家庭の意識向上に繋げ、学校と家庭、地域の連携強化に努める。

(2) 安全教育の充実に関する取組

○防災学習

- ・全ての学級が生活単元学習等で防災学習に取り組む。
- ・防災学習に関するキャリア発達段階表や防災学習指導内容項目表を活用して授業実践を行う。（系統的な防災教育につなげる）
- ・課題に沿った避難訓練を実施する。

○行動の変化

- ・教職員、保護者が防災に関して行動の変化を促す取組を行う。（意識調査、研修会、危険箇所チェック表）
- ・引き渡し訓練を実施する。（学校内で保護者と。校外でスクールバス介助員と。）

○家庭や地域への発信

- ・参観週間に防災に関する授業を公開する。
- ・ホームページで取組の紹介を行う。

(3) 安全管理の充実に関する取組

○地震対策マニュアルの改訂

- ・専門家の助言、指導を受けてスクールバスの運行ルートの危険箇所及び避難経路の確認を行い、スクールバス委員会で協議し改訂した。

○各種マニュアルの作成

- ・避難訓練後の反省を受け、トランシーバーや担架の使用方法のマニュアルを危機管理マニュアルに追加した。

○教室安全点検表の作成及び実施

- ・毎月25日を「学校安全の日」とし、児童生徒自らが教室の危険箇所の有無を点検する仕組みを作った。

(4) 成果と課題

<成果>

○防災学習

昨年度より、防災学習を組み立てる上での生徒の実態把握と発達段階に合った授業展開のためのツールとして防災学習キャリア発達段階表を作成し、取り組んでいる。しかし、各クラスの防災学習指導略案や単元計画表を確認すると、従来のキャリア発達段階表では、項目を類型にしたことにより、扱う内容の幅が狭く実態に合わず、児童生徒の実態に応じた内容を学習指導要領から新たに設定することが必要となった(表の赤線を参照)。この課題を解決するために、学部ごとに段階を設定し、なおかつ学習指導要領に沿う形の新しい防災学習キャリア発達段階表を作成した。また、各項目の目標を決め、ゴール地点を明確にしてスモールステップになるように改善した。

(左の表が旧キャリア発達段階表、右の表が新キャリア発達段階表)

項目	小学校			
	1-3年	4-6年	1-2年	1-2年
防災を知らせる	地震の時に起こる危険を知り、正しい判断と安全な行動を知り、危険に対する心構えを知る。	地震の時に起こる危険を知り、正しい判断と安全な行動、危険に対する心構えを知る。	地震・津波発生時のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。	地震・津波発生時のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。
	注意を受けながら、南海トラフ巨大地震が来ることを知る。	注意を受けながら、南海トラフ巨大地震が来た状況を知る。	南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。	南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。自分の住む地域の学校、学習場発生する危険を知る。
	緊急地震速報の意味を理解する。	緊急地震速報の意味を理解する。	緊急地震速報の仕組みを知る。	緊急地震速報の仕組みを知り、実際に活用できる。
避難	緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに反応し、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに反応し、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応でき、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応でき、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)

項目	防災に対する意識を高めるとともに、安心安全で楽しい学校生活を進める							
	児童の目標	1段階	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階	7段階
防災を知らせる	地震の時に起こる危険を知り、正しい判断と安全な行動を知り、危険に対する心構えを知る。	地震の時に起こる危険を知り、正しい判断と安全な行動、危険に対する心構えを知る。	地震・津波発生時のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。	地震・津波発生時のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。	地震・津波発生時のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。	地震・津波発生時のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。	地震・津波発生時のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。	地震・津波発生時のメカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。
防災を知らせる	注意を受けながら、南海トラフ巨大地震が来ることを知る。	注意を受けながら、南海トラフ巨大地震が来た状況を知る。	南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。	南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。自分の住む地域の学校、学習場発生する危険を知る。	南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。自分の住む地域の学校、学習場発生する危険を知る。	南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。自分の住む地域の学校、学習場発生する危険を知る。	南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。自分の住む地域の学校、学習場発生する危険を知る。	南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。自分の住む地域の学校、学習場発生する危険を知る。
避難	緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに反応し、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに反応し、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応でき、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応でき、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応でき、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応でき、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応でき、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)	緊急地震速報や支援者以外の人からの避難の声掛けに反応でき、枕・不機を脱げたり、身体を動かすこと(状況に応じた受け付け)

○教室安全点検表

毎月25日を「学校安全の日」とした。児童生徒自らが教室の危険箇所の有無を点検し、教室内の壊れている所や危険な場所、棚や道具の置き方についてチェック表を見ながら点検している。自分たちの過ごしている教室の環境を整えることで、発災時の危険を少しでも減災できる取組となっている。



検査場所		検査日	
検査場所	検査日	検査者	検査結果
1	廊下は掃除ができていますか?		
2	机、椅子、棚の脚は壊れていませんか?		
3	机の下の足はぶさぶさしていませんか?		
4	机や椅子は壊れていませんか?		
5	机のガラス、扉やドアは壊れていませんか?		
6	天井の照明、開閉りはいませんか?		
7	黒板、黒板、黒板、黒板は壊れていませんか?		
8	机のガラス、扉やドアは壊れていませんか?		
9	机のガラス、扉やドアは壊れていませんか?		

①担当教員 印 → ②学安部 印 → ③事務 印

○避難訓練

避難訓練(年間4回実施)では、新型コロナウイルス感染症対策を敷き、発災時に起こりうる状況を想定した訓練に取り組んだ。今年度の避難訓練では、各種マニュアルの見直しや学校災害対策本部の機能及び必要物品等について協議し改善した。また、いつ地震が起こったとしても、子どもたちが落ち着いて判断し、行動できることを目標に授業中や休み時間など、様々な時間帯や場所で緊急地震速報を鳴らして訓練をするショートバージョンの避難訓練にも取り組んだ。この訓練を通して、時間帯や場所が変わったとしても発災時の基本的な動作をとることができるようになってきている。今年度も高知大学名誉教授の岡村眞氏を招聘し、地域住民の方と一緒に学び合う夏期防災研修会を実施した。また、本校のスクールバスに乗車していただき、通行ルートや発災時の危険箇所について助言をいただいた。今後、助言をいただいたことをマニュアルの改訂につなげていく。

「避難訓練（地震・火災）について」



避難訓練の様子（火災）



給食時間での訓練の様子



作業学習中での訓練の様子

「スクールバスについて」



岡村教授によるスクールバスの運行ルート及び避難経路についての確認の様子

<課題>

- ・昨年度作成した防災学習キャリア発達段階表をより実践的で効果的な内容になるように修正することができたが、実践への活用が不十分。
- ・家庭と連携した防災教育が不十分。
- ・コロナウイルス感染症拡大により、参観日や研修会の実施に制約があり、地域や保護者への本校の防災学習の取組の発信が十分にできなかった。制約のある状況での発信、共有の工夫が必要。

（5）今後の取組

- ・防災学習の更なる充実（キャリア発達段階表や指導内配列表を活用）
- ・防災学習で培った知識、技能を家庭・社会生活の力に生かせる授業実践
- ・様々な場面を設定した避難訓練の実施
- ・発災後を想定した災害対策本部の訓練の実施
- ・発災時の救助に関わる校名を校舎屋上へ明記
- ・身の回りの整理整頓（各教室、職員室）
- ・マニュアルの見直し（地震・火災等）
- ・家庭、地域へ情報発信（学級通信、HP）
- ・防災力、防災意識が高まる研修会を実施し、行動につなげる。